



## 新横浜駅営業二科で 防寒コート勝ち取る！

新横浜駅営業二科では、防寒コートについて個人貸与ではなく、共用として1着のみしか置いてありませんでした。そのため、お客様対応のために新幹線ホームに複数名の社員が出場する際、極寒の中、震えながら対応せざるを得ませんでした。一方、ホームで列車看視や安全確認などを行う社員は、誰もが防寒コートを着用しています。

しかも、共用の防寒コートを使用するにも、帳簿で使用日と使用理由を記載することになっており、更には「使用頻度が少ない場合は、コートを撤去する」とまで書かれていました。これは暗に、防寒コートを撤去したいがために、敢えて1着しか用意していなかったのではないかと推察できます。人間の体格はそれぞれであり、用意されたコートが大きかったり、小さかったりすれば、コートを着たくても着れません。結果的に、会社は使用頻度が少ないと判断して共用防寒コートを撤去する計画だったのでしょう。新横浜駅営業二科で働く社員は、人として扱われていないのでしょうか？

この状況がおかしいと感じたJR東海労組合員は、新幹線地本と連携をして、共用防寒コートを3サイズ計5着勝ち取りました。

コロナ禍である昨今の事情を鑑みれば、防寒コートは個人貸与であるべきですが、職場で働く人々が人間らしく働けるならば、現時点、防寒コートを増備できたことは、闘いの成果です。